



【緊急報告】

令和6年能登半島地震
緊急支援の現場から

2024年2月13日(火)13:00-13:30 東京大学駒場キャンパス

登壇者：稲葉基高（ピースウィンズ・ジャパン「空飛ぶ捜索医療団“ARROWS”」医師）

阪本真由美（兵庫県立大学大学院 減災復興政策研究科教授）

©ピースウィンズ・ジャパン

発災直後から現地に入り、捜索・医療支援を行っているNGO職員の医師、そして行政・企業・NPO等の連携体制構築をサポートしている研究者のお二人からの緊急報告です。被災から1ヶ月経った支援の現状、今後見通し、課題についてお話しいたします。

日時： 2月13日(火) 13:00-13:30 (対面開催のみ)

場所： 東京大学駒場キャンパス 21KOMCEE East K011教室

参加費： 緊急人道支援学会第1回設立記念大会の一部として開催されます。

(会員)3,000円、(非会員)5,000円 (学生)無料・要事前登録 (懇親会)5,000円

全体プログラム：<https://jashas.org/conference/announcement/240213.html>

稲葉基高(いなば・もとたか)氏 医師／認定NPO法人ピースウィンズ・ジャパン「空飛ぶ捜索医療団“ARROWS”」プロジェクトリーダー

1979年岡山県真庭市生まれ。長崎大学医学部を卒業後、15年間病院で外科医、救急医集中治療医として多くの患者の生死に関わる。

2011年東日本大震災でDMAT(災害支援医療チーム)の一員として被災現場に派遣されるも十分な活動ができなかった悔しさから、災害医療の世界に入る。2018年国際NGOピースウィンズ・ジャパン(PWJ)に入職。災害医療を軸とした緊急支援プロジェクト「空飛ぶ捜索医療団“ARROWS”」の立ち上げよりプロジェクトリーダーを務め、多くの災害時に出動、徹底して現場にこだわった支援活動を行っている。また、岡山大学大学院では高齢者救急集中治療の研究も行っている。



阪本真由美(さかもと・まゆみ)氏 兵庫県立大学大学院減災復興政策研究科教授

専門は、減災リスクコミュニケーション、防災教育、災害情報、国際協力。神戸大学大学院国際協力研究科修士課程在籍時に、在エルサルバドル日本大使館の専門調査員。修士課程修了後、JICA(国際協力機構)にて、開発途上国への国際協力実務に携わった後に、防災について研究するため京都大学大学院情報学研究科博士後期課程に進学。

博士(情報学)。人と防災未来センター主任研究員、名古屋大学減災連携研究センター特任准教授を経て、2017年4月より兵庫県立大学大学院減災復興政策研究科にて勤務。

2011年東日本大震災や2016年熊本地震では、県・市町村の災害対応支援に携わる。官民連携による災害対応の仕組みづくりにも取り組んでおり、全国災害ボランティア団体支援ネットワーク(JVOAD)の理事・運営委員を務めている。国土強靱化推進会議委員。

お申し込み：<https://jashas-conference1.peatix.com/>

お問い合わせ：緊急人道支援学会事務局

info@jashas.org

